

ワールド ウッド トренд

No. 16, 17 NOV 2014



2014 年前半のロシア産丸太の輸出状況

2014 年前半にロシア産消毒剤未処理木材が最も多く輸入されている国は、これまでと同様、中国である。「このような結果につながった主な理由は、ロシア材が割安であること、ロシアと中国の樹種が類似していることが挙げられる。」と経済省のロスレスクホズ・ラフェイロフ (Rosleskhoz Rafailov) 副長官は述べている。

中国向けのロシア産原木の輸出は、減少している。2014 年前半、中国向け原木の輸出量はロシアの原木輸出量の約 52%を占めている。中国はロシアの原木の輸入最大国であることに変わりがないが、ここ 2 年、ロシアからの原木輸入を縮小している。2013 年には、中国がロシア産原木の輸入量は、前年比 11%減少の 765 万 7,000m³、10 億 7,000 万ルーブル (約 27.9 億円、1 ルーブル≒2.61 円として試算) になった。このような減少の主な理由は、中国経済の減速もあるが、米国、カナダ、そして特にニュージーランドからの原木輸入の増加である。

フィンランドは、中国に次ぐ第 2 位のロシア原木輸入国である。同国向けの原木輸出は 2014 年前半に著しく増加している。2013 年～2014 年前半の期間において、フィンランドは、ロシア輸出原木の 32%を輸入している。2014 年前半に限ってみると、フィンランド向けの原木輸出量が前年同期比 47%増の 451 万 2,000m³、輸出額が同 45%増の 1 億 6,700 万ドルに達している。

スウェーデンは、2013 年に中国、フィンランドに次いで 3 番目に大きいロシア産原木の輸入国である。しかしながら、ロシア原木の輸出量に占める同国のシェアは、5%にすぎない。

2013年、大韓民国向け原木輸出量は、前年と比べて3%減の63万1,130m³になった。輸出額は、輸出価格の上昇により前年比7%増の8,045万ドルになった。2014年前半には、大韓民国のロシア原木の輸入国順位が、2012年の第2位から第4位に後退した。2013年～2014年前半のロシア原木輸出に占める大韓民国の割合は、4.5%未満であった。極東の輸出業者によれば、これは大韓民国の全森林生産物の生産量に匹敵する。大韓民国へ輸出される原木は、主にマツやエゾマツであり、同国向け輸出原木の4%だけがカバのパルプ材である。今年は、同国に輸出されたカシヤブナの原木もあるが、少量である。

ドイツへの原木輸出は増加したが、製材品は減少した。2014年前半、ドイツ向け原木輸出量は前年同期比15%増の2万7,700m³になり、輸出額は9%減の220万ドルになった。輸出額の減少は、輸出価格の値下がりによるものである。

ドイツへの製材品の2014年前半の輸出は、原木の輸出とは対照的に、前年同期比15%減の13万1,620m³であった。輸出額は同9%減の6,710万ドルになった。

イラン向けの原木輸出は、植物衛生対策のために減少しており、2014年前半が前年同期と比べて3.7倍以上減少の207m³になり、輸出額は、4万1,000ドルになった。

また、2014年前半におけるイラン向け製材品の輸出は減少している。2013年～2014年前半における同国のロシア産製材品輸出に占める割合はわずか3.5%であった。アゼルバイジャンおよびタジキスタンの業者は、ロシア産板材を買い入れて、一部を鉄道でイランへ送った。イランへ製材品輸出のより安価な方法は、カスピ海を横切ってアストラハン港へ水路で運ぶことである。

イラン向け原木や製材品の輸出減少の主な原因は、イラン側の植物衛生対策のためであった。2011年7月、イランとロシア両国は、「イラン・イスラム共和国の植物防疫機構とロシア連邦の連邦家畜及び植物衛生監視所との協力に関する協定」が調印された。協定の要点は、イランへの製材品輸出の出荷は有毒化学薬品（臭化メチル）の処理の後にだけ許可されるが、臭化メチルの使用は住宅地内で冬にのみ使用可能、ということである。こうした化学薬品の適用に関する問題の故に、アストラカン港の住宅地区内において2013年には、イランへの輸出に向けて準備された林産物が大量に積みあがってしまった。

2013年11月、コンスタンチン・マルケロフ（Konstantin Markelov Markelov）副知事は、イラン・イスラム共和国の植物防疫機構の代表団との会合を開いた。イラン側との会合においてコンスタンチン・マルケロフ副知事は、「イラン側は、

近い将来、化学処理の代わりに熱処理をすることに同意し、両者は、覚書に追加して調印する。」という合意に達した。このことは、輸出に関する状況を解決するであろう。会合中に、植物検疫に関するロシアとイランの間の協力協定の修正についても合意に達した。追加事項は、臭化メチルの場合だけでなく、乾燥または熱処理が製材品の薬剤処理と同等であるという植物衛生証明書を出すことである。しかしながら、この協定によるイラン向けロシア産原木や製材品の輸出への寄与効果がまだ現れていない。

(本文は現地レポートを基に編集したもの)

WORLD WOOD TREND